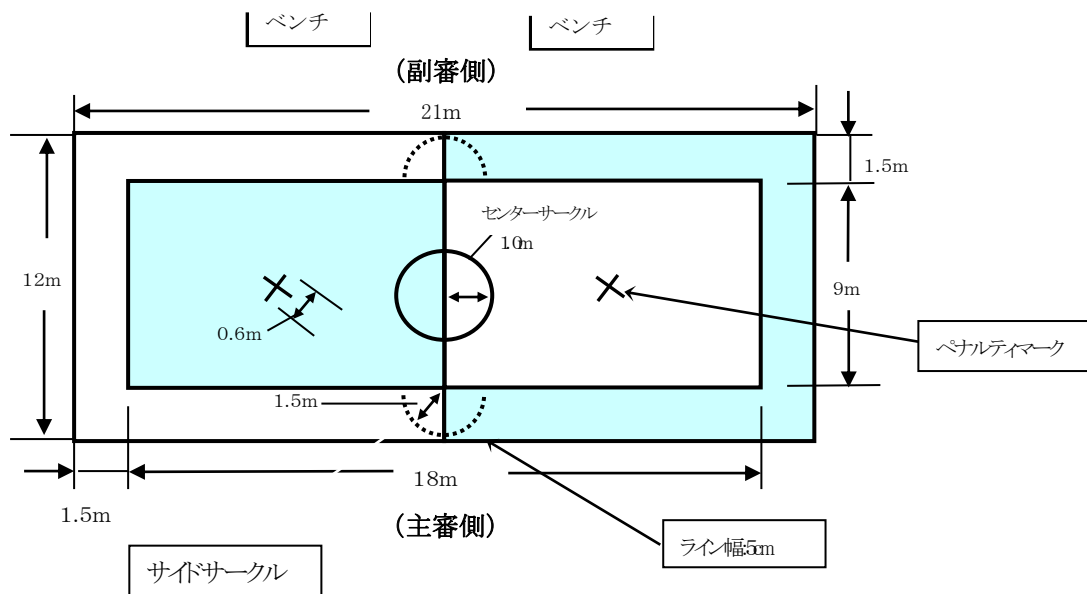




ドッジボール規則

1 競技場

競技場は、次の図のとおりとする。



2 用具

使用球は教育用2号ボールとし、選手の服装はチームで統一された運動着を着用する。

- (1) 負傷防止、保護を目的とするサポーター・テープ等の着用は認める。
- (2) ゼッケンは、縦14cm、横18cmの白地の布に黒文字とし後ろに縫い付ける。
- (3) 使用するボールの空気圧は、胸より落として腰まではねあがるものとする。

3 競技人員

- (1) 競技は女子・男子別とする。

試合には、女子は内野4人、外野3人、計7人が出場する。

男子は内野3人、外野3人、計6人が出場する。

- (2) 出場する選手は、学年により次のとおりとする。

女子の部 : 6年4名、5年2名、4年1名

男子の部 : 6年4名、5年1名、4年1名

★注1 その学年に選手がいない場合は、低学年の選手を出場させることができる。ただし、小学1年以下の出場は認めない。

★注2 一度退いた選手は、そのセット中にはプレーすることはできない。(ただし、病気やけが等で試合続行が不可能になった場合を除く)

4 競 技

- (1) 試合は、3セット制とし、1セットを6分とする。6分以内に内野選手が0になった場合は、そのセットを終了する。ただし内野選手が0になった時でも内野に入る権利を得ている選手がいる場合はその選手を内野に入れて試合を続行する。
- (2) セット間で2分の休憩をとる。
- (3) ボールを当てられた選手は、すぐに手をあげて自分のチームの外野に出る。
- (4) 相手チームの選手をあてた外野の選手は、すぐに手をあげ必ず内野に入らなければならない。ただし、外野の選手が3人のときは内野に入ることはできない。
- (5) 勝敗の決定は、2セット先取又は、1勝2引分けしたチームの勝ちとする。セットの勝敗は、内野選手の多い方を勝ちとする。
- (6) ボールが外野のラインに触れたりコートの外に出た場合、最後に触れた者の相手ボールとなる。
- (7) チームが試合開始時刻に3分以上遅れた場合は、相手チームの勝ちとする。
- (8) 1セット中に各チーム1回(30秒)の作戦タイムをベンチからとることができる。プレーが停止した時点で審判は作戦タイムを宣言する。またタイムを要求したチームが30秒以内で終了した場合は、その時点で終了となる。
- (9) 対戦するチームの服装が同色系で審判行為に支障をきたすと判断される場合、主審の判断により識別可能な付帯品を着衣させることができる。

5 競技上の反則

次の行為をした場合は、相手チームのボールとなる。相手チームは、ペナルティマークにボールをつけて試合を再開する。

- (1) ボールを腰から胸の身体の一部で直接受けとめた場合《以下「デッドボール」という》。ただし、地面にふれたボールの場合は、反則とはならない。
- (2) パスを10回投げた場合《以下「パス10回」という》。
- (3) ボールを投げないで5秒以上保持していた場合《以下「5秒オーバータイム」という》。
- (4) ボールを持って4歩以上歩いた場合《以下「4歩」という》。
- (5) 外野の者が内野に入る権利を得て、再びボールに触れた場合。また、当てられた者が外野へ出る前に、再びボールに触れた場合。《以下「2度ボール」という》
- (6) 当てた選手がはねかえったそのボールを他の選手よりも早く触れた場合《以下「2度ボール」という》。ただし、1人の場合は触れることはできるが、ペナルティマークにつけてから開始する。
- (7) 内野選手の持っているボールを外野選手が奪い取ったり、相手のコート上にあるボールをたたいて取らなかった場合。《以下「ホールディング」という》
- (8) ボールを横手投げした場合。《以下「横手投げ」という》
- (9) ボールをドリブルした場合。《以下「ドリブル」という》
- (10) 内野の選手及び攻撃側の外野の選手がラインを踏んだり出たりした場合《以下「ラインクロス」という》。

6 審判員

審判員は、試合毎に主審1名、副審1名、線審4名、計時1名、配球1名の計8名で構成する。

- (1) 主審
競技規則を施行し、争点について最終決定を与える。
- (2) 副審
競技がスムーズに行われるよう主審を援助する。
- (3) 線審
ボールまたは選手がラインに触れたか(または越えるか)どうか判定し、競技がスムーズに行われるよう主審を援助する。
- (4) 計時
競技がスムーズに行われるよう主審の指示に従い計時を行う。
- (5) 配球
競技がスムーズに行われるよう主審の指示に従い配球を行う。
- (6) 審判員にボールが触れた場合
プレー中のボールがコート内にいる審判員に触れた場合、審判員は直ちに試合を止め触れなかった場合のボールの行方を判断して処置する。

7 チームの失格

次の行為をした場合、そのチームは失格となる。

- (1) 登録した選手以外の選手を出場させた場合。
- (2) チームの編成を学年制限規定によらなかった場合。
- (3) 正規の合併を行わないで、その子ども会以外の選手を登録した場合。
- (4) 試合開始時刻に3分以上遅れた場合。
- (5) 試合の進行を著しく阻害する行為をした場合。

8 審判の権限

- (1) 主審および副審は、選手、指導者(監督)及び応援する者がルール上規定されない危険行為やスポーツマンシップに反すると判断される行為をした場合は、注意及び警告をすることができる。また、これにより主審は、退場及び試合没収等の罰則を適用することができる。
- (2) 試合中、次に掲げる不測の事態が生じた場合は、タイムをとる(試合を中断する)ことができる。
 - 1) 主審及び副審または線審との間で判定が異なり、確認または協議が必要と判断された場合。
 - 2) 顔面または頭部等にボールが当たった場合で試合続行が適当でないと判断された場合。
 - 3) その他危険を回避する場合。

= 細 則 =

(1) 試合開始

- (ア) センタージャンプはボールが最高点に達してからタップする。最高点前にタップした場合はやり直しになる。 ※今年はジャンプボール無し(試合前にジャンケン)
- (イ) タップは一度とする。ボールが体に触れた場合は、やり直しになる。
- (ウ) センタージャンプをしたボールが外野に出た場合は、やり直しになる。
- (エ) センタージャンプの際は、センターサークルの線と中心線を踏んでも出てはいけない。その場合はやり直す。
- (オ) 同一人が再度線を踏んだ時は、相手ボールとなる。この処置は同時に(ア)(イ)(ウ)のプレーがあっても優先する。
- (カ) 相手ボールになったジャンパーがラインクロスの場合は、やり直さない。
- (キ) センタージャンプをして得たボールは、ペナルティマークにつけて試合を開始する。

(2) ペナルティマークのつけ方

- (ア) ペナルティマークにつける動作は主審の合図により開始する。
- (イ) ボールを持って足で踏んではいけない。必ずボールをつける。
- (ウ) ペナルティマークをしたボールは、つけた者が受けとる。

(3) 3セット終了後勝敗のつかない場合は、次のように扱う。

- (ア) 引き分けとする。

(4) 外野の者が内野に入る権利を得てボールにふれた場合は、ボールは相手ボールになるが、本人は内野に入らなければならない(2度ボール)。

サイドサークル内で待機している選手がボールに触れた場合は2度ボールとせず、審判員にボールが触れた場合と同じ処置をする。ただし故意に触れた場合は2度ボールとする。

(5) 選手の交代

- (ア) 1セット中に各チーム1回、同学年、同ポジションの選手交代を要求することができる。交代人数は、制限なしとする。
- (イ) セット間(3分間の休憩時)は申告せずに選手交代ができる。
- (ウ) 病気やけが等で試合続行が不可能になった場合はその時点で行うことができ、また随時復帰することができるが、この場合はセット中の回数制限(1回)にはカウントしない。
- (エ) 2セット以降の入場の際は、出場選手のみ入場する。

(6) デッドボールの扱い

- (ア) ボールを、腰から胸の身体の一部で直接受けとめた場合は、すべてデッドボールとなる。味方同士でも同じ。

- (7) パスの数え方
- (ア) パスは、ボールが手から離れた時1回とする。
 - (イ) パスの間に相手チームの選手が触れた場合は、パスカウントは0に戻る。
 - (ウ) 9回目のパスを味方が捕球完了した時点でボールデット(反則成立)となる。
- (8) ラインを踏んだ場合
- (ア) 内野の選手がボールを持っている場合やボールを取ろうとしている場合は相手ボールとなり、人もアウトとなり外野に出る。
 - (イ) ただし、ボールに関与していない内野の選手の場合は、人はアウトになるがボールの移動はない。ラインクロスをした時点でボールを所持していたチームからペナルティーより再開する。
 - (ウ) 攻撃をしている側の外野手がラインを踏んだ場合は、相手ボールとなる。
 - (エ) 内野に入る権利を得た外野の選手がラインを踏んだ場合、その選手は内野に入ることができない。
- (9) ドリブル
- (ア) ドリブルはできない。ただし、内野が1人になった場合のみ許される。
 - (イ) 地面についたボールを同じ選手が取った場合は、ドリブルとなる。ただし、捕球動作中に地面についたボールはドリブルとならない。
 - (ウ) 地面につかない場合でも一度手から離れたボールに再び触れた場合(投げ損ない等)はドリブルとなる。(空中ドリブル)
 - (エ) ペナルティマークについたボールを取り損ねた場合はドリブルとなる。
- (10) ホールディング
- (ア) 相手のコート(内野コートに限る)上にあるボールを取る場合は、ボールをたたいてとらなければならない。
 - (イ) 相手コート上であっても弾んでいるボールを直接捕球する場合は、ホールディングとはならない。ただし、一度ボールをたたいた場合は自分のコートまでたたいて出さなければならない。
- (11) 4歩
- (ア) 捕球動作が完了するまでのステップは歩数には数えない。
 - (イ) 4歩の判断基準は、3歩歩行後にいずれかの足(かかと)が床(地面)から離れた時点で4歩とみなす。
 - (ウ) 踏み込みながら捕球し連続した動作で投球に入った場合は、捕球動作とみなさず歩数に数える。ただし、捕球後に一度静止した場合はその限りではない。
 - (エ) 1歩目を軸足とし他方の足で複数回ステップした場合は、軸足(かかと)が床(地面)から離れなければ4歩とみなさない。(ピボットの容認)

- (12) ボールを取り損ねても味方の選手が捕球した場合は当たりとならない。
- (13) 横手投げとは、ボールを肩よりも低く、腰よりも高い位置から腕を横に振りながら投げることで、いわゆる遠心力を利用した投球方法をいう。
- (14) 腰から下の部位で捕球しても良いが、故意的に相手に向かって蹴る等の危険行為をしてはならない。
- (15) 試合開始時刻は、5分前までに体育館内放送等で知らせる。
※試合状況により試合開始時刻は予定時刻から変更となる
- (16) 交代選手及び指導者は、ベンチで待機する。指導者は2名以内とする。また、作戦タイムの時にコート(外野)に入ることのできる指導者は1名のみとし、もう1名の指導者と交代選手はベンチで待機しなければならない。
- (17) 一切の抗議は認めない。ただし、指導者は試合進行に支障のない範囲で主審に対しルールの説明を求めることができる。
- (18) 低学年の者が高学年の代わりに登録する場合は、登録学年のゼッケンをつける。登録した学年同士で交代する。ただし、病気、けが等で試合の続行が不可能になった場合は、現学年に戻すか、低学年を繰り上げることができるが、ゼッケンはその場で修正しなければならない。
- (19) サポーター・テープの着用
負傷防止、負傷部位の保護目的の着用を認める。この目的以外の着用及び競技能力に影響する形状のものは認められない。
また負傷防止、保護目的のものでも華美に走らない事とする。
判断に迷う場合は審判員に判断を仰ぐ事とする。
例)
着用可:サポーター、テープ(テーピング用)
〃 不可:①リストバンド、ミサンガ、輪ゴム
②ブランドロゴが目立つ物等ファッション性を重視したもの。
③手袋状等(競技能力に影響)

《用語の解説》

- 競技場**…競技場とは、その範囲内で合法的にボールを投げたり、受けたりできる地域をいう。
- 外野**…縦12m、横21mの長方形で、内野をとりまく1.5m幅の領域をいい、センターラインにより相手コートとの区別がされている。
- 内野**…縦9m、横18mの長方形で、センターラインにより相手コートとの区別がされている。
- ペナルティマーク**…一方の内野の対角線が交わったところから、対角に30cm ずつ引いたラインをいう。
- センターサークル**…センターラインの中心より、半径1.0mで書いた円をいう。
センタージャンプ後はラインクロスの対象としない。
- サイドサークル**…内外野への移動通路、及び内野に入る権利を得た選手の待機場所。
内野に入る選手は一旦サイドサークル内で停止し、審判員の指示により内野に入る。
サークルのラインはラインクロスの対象としない。
- ベンチ**…副審側外野コートの外に設ける。
- ボール**…教育用ドッジボール2号をいう。
- セット**…8分間の競技時間をいう。
- センタージャンプ**…競技開始前にセンターサークル内で、主審が空中に投げたボールをたがいに取り合う行為をいう。
- ドリブル**…地面についたボールを同じ選手が触れた場合をいう。
- 横手投げ**…ボールを肩よりも低く、腰よりも高い位置から腕を横に振りながら投げることで、いわゆる遠心力を利用した投球方法をいう。
- デッドボール**…ボールを直接胸で受けとめた場合をいう。
- 当たりボール**…相手が投げたボールを取り損ねたり、捕球せずに触れた場合をいう。ただし、取り損ねた場合に限り地面に触れる前に味方が捕球した場合は当たりとならない。
- 作戦タイム**…内野の選手と外野の選手は、内野の線をはさんでタイムをとる。

*ドッジボール(dodge ball)

二組に分かれ、一定のコート内でボールを投げあい、より多く相手に当てたほうが勝ちとなる球戯。(小学館・国語大辞典参照)